

UltraLight-Scenario

○○○○○

課長、ステージに立つ!?

“暴走課長”レイが、アイドルになる!?
公式ゲストが特殊なシチュエーションに巻き込まれる様を楽しめるシナリオだ。

(掲載日: 2016.7.27)

プレアクト情報

○○○

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者

K.U.Z. (twitter: @KUJ_3STT3P)

▼プレイヤー人数

1~3人

▼想定プレイ時間

2~3時間

▼シナリオタグ

“暴走課長”レイ、アイドル、ギャグ

●UL シナリオ

本シナリオは「UL (超軽量) シナリオ」だ。ULシナリオについての詳細は以下のサイトを参照のこと。

http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/UL_NOVA.html

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

▼使用経験点

0~30点

▼達成値制限

なし

▼スタイル制限

特になし

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

送られた脅迫状

襲われた車

怪我をしたアイドル

はたしてプロデューサーはステージを成功させることができるのか?

トーキョーNOVA THE AXLERATION

『課長、ステージに立つ!?』

運命のステージが今、幕を開ける

改定情報

16.8.6 誤植訂正

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。

『①イヌ』：正義の猟犬（『TNX』p085）

『②エグゼク』：世界の支配者（『TNX』p095）

『③トーキー』：遊撃記者（『TNX』p089）

●特記事項

このシナリオは「暴走課長」レイ（『TNX』p068）がステージに立つ」という展開のためだけに逆算して作られたシナリオ（*1）である。また、その流れにおける「暴走課長」レイの反応を楽しむシナリオである。

細かいことは気にせずに、そういうシナリオだと思ってプロデューサーさんっぽいムーブを全員で楽しんでいただきたい。

『③トーキー』は後付けであり専用のイベントなどは特に用意されていない。

●必要な神業

ゲストの神業だけで死亡するのを防ぐために防御系神業が最低2枚必要である。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は〈社会：メディア、企業〉などである。

●N◎VAクルード

基本ルールに準じたルール処理と、N◎VAクルード（『CHM』P16）に準じたルール処理が併記されているので、状況に応じてどちらかのルールを選び、その指示に従うこと。

■キャスト間コネクション

以下の順番で取得すること。

『①イヌ』→『②エグゼク』→『③トーキー』→『①イヌ』

（*1）逆算して

筆者のツイッターのタイムラインに「嫌がってはいくらでもんざらでもないレイをアイドルデビューさせるシナリオがやりたい」と流れてきた。

アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

各キャストには、以下の設定が推奨・追加される。

『①イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課の隊員

『②エグゼク』：“暴走歌手”リンのプロデューサー

『③トーキー』：設定や所属など

①推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“暴走課長”レイ（『TNX』p068）

推奨スート：理性

警護対象であった“暴走歌手”リンはあなたのミスで怪我をしてしまった。軽い怪我だが、ステージでスタントをこなすのは危険との事。賠償問題かと思われたが、プロデューサー（『②エグゼク』）との交渉の末、代役を見つけてくれれば良いという承諾を得た。しかし、バイクスタントに殺陣もこなせるウェットなんて早々見つかるはずがない、どうしたものか？

【PS：ステージを無事に終わらせる】

②推奨スタイル：エグゼク

SCENARIO HANDOUT

コネ：“暴走歌手”リン

推奨スート：感情

あなたは“暴走歌手”リンのプロデューサーだ。彼女は怪我をしてしまってスタントを行うのは危険だが、やるという聴かない。こうなった彼女を説得するためには、彼女が納得する代役を見つけるしかない。

※推奨スタイルはクグツでも構わない。

【PS：ステージを成功させる】

③推奨スタイル：トーキー

SCENARIO HANDOUT

コネ：“暴走歌手”リン

推奨スート：外界

あなたは“暴走歌手”リンの密着取材中のトーキーだ。
最新の流行はネオニューロメタルだが、ARなし電制なしソフトウェアもなしで行われる殺陣とバイクスタント、インストール後2秒でマスターしたものとは違う、“本物”のショーがここにはある。アクシデントもイレギュラーも番組には持っていない。

【PS：ステージを成功させ、密着取材をやり遂げる】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

“暴走歌手”リンは、過去に“暴走警官”レイに助けられたためウェットでバイクスタントと殺陣をこなすという異色のアイドルである。

その殺陣に興味を持った“殺陣殺し”^{えびす・たかひろ}夷剛宏は彼女に脅迫状を送った。オフ会で“殺陣殺し”^{かたしお・けんすけ}を見かけたファン^{かたしお・けんすけ}の一人である“会員 No.004”片塩賢典は彼女を守るためにステージを中止させようと企む。その企みでケガをしたリンの代役兼護衛として、“暴走課長”レイはステージに立つこととなった。

厳しいトレーニングの末の本番で、“殺陣殺し”と“会員 No.004”が現れる。彼らを排除しステージを成功させればアクトは終了だ。

■クライマックスの条件

十分にレッスンをこなし、本番当日になればクライマックスである。(イベント3の後であれば任意のタイミングでクライマックスに入ってよい)

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1: アイドル、ケガをする

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：『②エグゼク』『③トーキー』も自動登場

◆解説

『①イヌ』が運転する車両でホテルに向かう。(◆描写1)

《天変地異》により車が暴走、大事故は免れるが、“暴走歌手”リンが足を痛めてしまう。(◆描写2)

◆描写1

『①イヌ』が運転するパトカーの車内。空港からホテルまで無事送り届けるのが「①イヌ」の仕事だ。

“暴走歌手”リンと『②エグゼク』『③トーキー』が乗り込んでいる。道が少し混んでおり、いつもより低速運転だが、順調だ。

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「ブラックハウンドさん、よろしくお願ひします。」

「遅いなー、自分のバイクでいければ早いのにー」

◆描写2

突如、ナビから聞きなれない声がかかる。と同時にすべての操作系のコントロールが奪われた、そのまま車はそのままガードレールに直撃する。

▼セリフ：??? (“会員 No.004”)

「ステージは中止してN◎VAにも帰ってくるなといったはずだ！忠告に従わないとこうだからな！」

「死にたくなければ、今すぐステージは中止してN◎VAを立ち去れえ」

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「私は大丈夫だと思うけどー、イタッ。ちょっと足を痛めたかも？」

◆処理

“会員 No.004”の《天変地異》を使用し、車はクラッシュする。

神業を使えばクラッシュを阻止することはできるが、“暴走歌手”リンが足を痛めるのは変わらない、これはアクトルールである。

◆結末

足を痛めた“暴走歌手”リンを病院に連れていくべく、応援なりロボタクなりを呼ぶなどすれば、このシーンは終了だ。

(※2) リン

レイに因んで中国語の零を意味するリンとつけている、本名ではない。

イラストは、TNDやカウンタークロウなどの“暴走警官”時代のレイを参照してください。

「髪形をけなされるとプチ切れる」くらいのリスペクトっぷりです。

No Image

▼設定

「リンはやると思ったらやるんでー」

ウェットのアイドル。ステージでバイクスタントに殺陣もこなす。

10年ほど前に助けてもらったバイク乗りのお姉さま(=レイ)に憧れて今のスタイルになったらしい。

ファンは歌よりもバイクスタントと殺陣を楽しみに来ているという噂。

一人称はリン(※2)で、語尾を伸ばす癖がある。

▼神業

エキストラ扱いであるため使用しない。

「“暴走歌手”リン

カブキ◎、カタナ、カゼ●(エキストラ)

●オープニング2：アイドル、わがママをいう

シーンプレイヤー：『②エグゼク』

登場：『①イヌ』は登場不可。『③トーキー』は望むなら自動登場可能。

◆解説

ケガのため“暴走歌手”リンにはスタントをあきらめさせなければならないが、いうことを聞かない。

何とか納得させたい、というところでシーンは終了する

◆描写1

病室、“暴走歌手”リンは医者に安静にしていると言われブータレながらもベッドで休んでいる。しばらくすると医者が説明しに来て、ステージでのスタントはやめたほうがいいと告げる。“暴走歌手”リンはアレルギーでナノマシン治療も受けられないためどうしようもないことだ。

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「プロデューサー、全然大丈夫ですってスタントも殺陣も完ぺきにこなせます」

「ぶー、いやーだー1週間あったら全然治るもん、リン絶対やるもんねー」

▼セリフ：医者

「ステージではバイクスタントもやるそうですが、1週間程度の自然治癒では危険すぎて許可しかねます。」

◆結末

足を痛めた“暴走歌手”リンがスタントをやるということで全くいうことを聞かない、ということが伝われば、このシーンは終了だ。

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●イベント1：課長、見舞いに来る

条件：『①イヌ』が“暴走歌手”リンの見舞いに行く

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：〈社会：警察、テクノロジーなど〉／SR：ホワイト「②エグゼク」は自動登場

◆解説

『①イヌ』が警察病院に搬送された“暴走歌手”リンを見舞う。

ハンドアウトにあるように『②エグゼク』は『①イヌ』に取引を持ち掛けてほしい

◆描写1

見舞いに来た『①イヌ』を出迎えたのは『②エグゼク』であった。

『②エグゼク』の雰囲気を感じた『①イヌ』は嫌な予感を感じた。

(キャスト同士の会話となる)

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「私が納得できる代役を連れてこない限り絶対にゆづりませんからね」

「レイお姉さまと共演できる？ 本当？ だったらリン我慢する！」

◆描写2

代役を探すという話になったところで“暴走課長”レイが登場する。

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「ケガをさせたって聞いて、見舞いに来たぞ。書類が嫌だったってわけじゃなくて部下の不始末は上司の不

始末でもあるからな」

「どうした？ オレの顔に何かついているか？」

◆処理

とくにないが、キャスト同士の交渉シーンでプレイヤーが望むなら交渉判定など行ってもよいだろう。

(*3) しぶしぶ

あくまでしぶしぶである。けってデスクワークが嫌だったとか、アイドルと言われると若干うれいお年頃とかという理由ではない。

No Image

▼設定

「やりたくてやってるんじゃないぞ。仕事だから仕方なく、な？」

「TNX」p068 参照。

今回、仕事だからとしぶしぶアイドルをやることになった。(*3)

▼神業

エキストラ扱いであるため使用しない。

「“暴走課長”レイ

カゼ、チャクラ、イヌ◎●(エキストラ)

●イベント2：課長、決断する

条件：イベント1の直後

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：〈社会：警察、テクノロジー_{など}〉／SR：ホワイト

◆解説

“暴走課長”レイを説得して代役にする。

◆描写1

図ったようなタイミングで条件にドンピシャな人物が現れた。

◆処理

“暴走課長”レイを説得するための〈交渉〉判定の成立が必要。

（クルードの場合【感情】で成功以上が必要）

登場キャスト全員が失敗した場合、『②イヌ』だけはもう一度判定できると告げること。それに失敗したら、このシナリオはここで終了することも告げること。

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「アイドルの代役でステージに立て？ それは何の冗談だ？」

「冗談じゃなくて本気？ そんなまじめに言われたからってできないからな」

（判定に成功した）「仕方ない、これも仕事だと思って引き受けよう」

（判定に失敗した）「まじめに代役を探せ！ 目の前にいたからオレとか横着しすぎだー！」

（2回目の判定で成功した）「え？ オレしかないって？ なんだよそこまで言われるとちょっと考えちゃうな」

「わかった、一肌脱いでやろう。これも仕事だから」

◆結末

“暴走課長”レイがステージに立つことが決まった。次のシーンからステージに向けたレッスンが始まる。

●イベント3：課長、レッスンする

条件：イベント2の直後

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：〈社会：メディア、警察など〉／SR：ホワイト

◆解説1

ブラックハウンドが準備した練習場でのレッスンが始まる。本番までの1週間、レイとリンはほぼ毎話状態でレッスンを続ける。（描写1～3）

レイは1週間のレッスンを終え、衣装合わせをしてもう明日が本番だ。（描写4）

◆描写1

レッスン開始。まずはできなければ話にならないバイクスタントと殺陣をテストする。

専用コースを走り、練習用のドロイドと斬りあう、レイは難なくこなす。

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「お姉さまならできます」

「さすがですお姉さま」

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「バイクに乗るとか、チャンバラしろとか簡単すぎるだろ」

◆解説2

〈運動〉か〈芸術：ダンス_{など}〉の判定を行い、成立すれば、レイに見本を見せることができる。

（クルードの場合、【生命】の能力判定で成功以上）

描写2および描写3の判定に何回成功したかで描写4が分岐する。

◆描写2

レッスン第二段階。踊りの練習。“暴走歌手”リンはケガのためその場で見本を見せることができず、レイはまったく理解できていない。

しかし、アドバイスを受けてなんとか形になる。

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「お姉さま、きゅつきゅーって動くんじゃないくて、くるーのふわーのとんって感じです」

「全然違います。また明日にしましょうか？」

（成功した）「さすがですお姉さま」

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「だからこの型からこうなって、こうだろ？」

「あーもー何が違うんだ！ 足も手も同じ動きだろ！」

（成功した）「そんなかんじか、わかったぜありがとな」

◆解説3

〈知覚〉か〈芸術：歌唱_{など}〉の判定を行い、成立すれば、レイの悪い点を発見し修正させることができる。

（クルードの場合、【理性】の能力判定で成功以上）

◆描写3

レッスン第三段階。歌の練習。

こっぴどかしい歌詞に最初嫌がっていたレイも、なんとか受け入れ、歌の本格練習になった。

しかし、下手ってことはないんだが何かが違う。“暴走歌手”リンはレイの声に聞きほれていてまともなアドバイスが全くできていない。

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「お姉さま。すてきです。」

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「なんだ、このこっぴどかしい歌詞は！」

「わかった！ これも仕事だ歌えはいんだろ歌えぱ！」

「『①イヌ』、どうだった？ 本気を出せばこんなもんだぜ」

（成功した）「そうか、次は意識して歌ってみるぜ」

◆描写4 A（上記の判定を二つとも成功させた）

レッスンも終盤。本番までの時間も少ないが、ほぼ完璧な仕上がりといいだろう。短期間でよくここまで仕上げたものだ。しぶしぶやっていた歌と踊りも今では満面の笑みでこなしている。

▼セリフ：“暴走課長” レイ

「『①イヌ』見ててどうだった？ 素直な感想言ってい
いぞ。」

「お世辞言たってなんにもやらないぞ」

▼セリフ：“暴走歌手” リン

「お姉さまとステージ・・・ありがとうプロデューサー」
「プロデューサー、大好きだよ！ お姉さまの次に大
好きだよ！」

◆描写 4 B（上記の判定で1つ以上失敗した場合）

レッスンも終盤。本番までの時間も少ないが、ま
だまだ至らない点が多い。

短期間のレッスンではこのあたりが限界というこ
とだろう。

▼セリフ：“暴走課長” レイ

「(げえげえ) だめだ、最近デスクワークばっかでなまっ
てたとはいえ、これはつらい」

▼セリフ：“暴走歌手” リン

「おねえさまとの共演はありがたいけど、リンはなん
か素直に喜べないですー」

◆結末

すべての判定に成功していれば、本番でも十二分な
実力が発揮できるだろう。

逆にすべての判定に失敗していたなら、ステージの
失敗は確定したも同然だ。(そうなれば、P Sは満た
せないということにしてもよい)

■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることができる情報
項目は以下のとおり。

全員共通：“暴走歌手” リン、脅迫状

なお情報項目名の頭にある記号は、N◎VA クル
ードにおいて、その情報を「能力判定」で調べる場合に
使用するスートを表している。

各情報の頭の数字は通常の判定での目標値、() の
中の文字はN◎VAクルードでの目標となる判定結果
序列だ。

(成：通常の成功／劇：劇的な成功／A：決定的成功)

♣ “暴走歌手” リン

〈社会：メディア、企業〉

10 (成) ウェットのアイドル。ステージでのバイク
スタントや殺陣が売り。

12 (成) 最近、脅迫状が送られてきたので、『①イヌ』
が警護していたが襲撃されてケガをした。

14 (成) ケガのため、スタントに代役を起用したス
テージは過去にもある。しかし、本人は極
力自分でやりたがる

◆脅迫状

〈社会：警察、ストリート、メディア〉

10 (成) “暴走歌手” リンの元には脅迫状が二種類届
いている

12 (成) 一通目は、合成パルプを手ですきなおした、
手すき和紙でできている。内容は「殺人有
りでお手合わせ願う」とある。

14 (成) 指紋とDNAで犯人は【“殺陣殺し” 夷剛宏】
だと判明

16 (成) 二通目は、電子メールでできている。内容は「ス
テージを中止しなければ死ぬ」というもの。

18 (劇) 犯人は不明だが【車を襲撃した犯人】と同一
であると考えれば特定できるかもしれない。

♥ “殺陣殺し” 夷剛宏

〈社会：警察、ストリート、メディア〉

10 (成) 元殺陣役者。カブキ◎

15 (成) 事故で人を切ってしまうからシリアルキ
ラーになってしまった。殺陣役者と生死を
かけた殺陣を行う。

♠ 車を襲撃した犯人

〈社会：メディア、テクノロジ〉

10 (成) “会員 No.004” 片塩賢典だと思われる

12 (成) N◎VA第4高校に通う学生

16 (成) 脅迫状を送られる前から「安全のためにス
テージを中止しろ」と訴えていた

18 (劇) アイドルの身を心配する真っ当なファンで
あれば交渉次第ではやめてくれるかもしれ
ない。(この項目を入手することで精神攻撃
の説得オプションが有効になる)

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●課長、ステージに立つ！

◆解説

いよいよ本番である。

ステージは問題なく進行する。(描写1)

ラストの殺陣の直前に、“殺陣殺し”と“会員 No.004”が舞台袖に表れてキャストと対峙する。

“殺陣殺し”は殺陣に参加する役者のふりをしてあらわれ、“会員 No.004”はステージにきたファンからのプレゼントを操ってゴースト登場する。(描写2)

◆描写1

“暴走歌手”リンがステージ上であいさつする。レイはバイクでジャンプして現れ自己紹介をし、リンとタンデムで袖に消え、一曲目が始まる。

▼セリフ：“暴走歌手”リン

「みんな、来てくれてありがとうー」

「今日は特別ゲストとして、私のあこがれの人が共演してくれますー」

「昔、私をピンチから救ってくれた“暴走課長”レイさんですー」

「じゃあ、ステージはじつまっするよー」

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「えーっと、“暴走課長”レイです。」

「今日はリンと一緒に殺陣やスタントもこなしていきたいと思います」

「みんなーよろしくねー」

▼セリフ：ファンたち

「ようこんでー」「いえー」「いえいえー」「おー」

◆描写2

順調にステージが進み、この曲が終わればラストの殺陣だ。

袖で待機していたあなた達の元に“殺陣殺し”“会員 No.004”が現れた。

曲をバックに決着の時が始まった。

▼セリフ：“殺陣殺し”

「次が出番のようで、ちょっと通してくだされませんか？」

「通していただけない？ではあなたとも手合わせ願ひましょう。」

(倒された)「……ここまでか」

▼セリフ：“会員 No.004”

「だから言ったんだ、危険だから中止しろって」

「そんな関係ないさ、僕は彼女を危険にさらした君たちが許せないんだ！」

(倒された)「彼女の歌を聴き流れ死ねるなら幸せだ」

(説得された)「僕は僕は…」

◆カット進行

“殺陣殺し”“会員 No.004”はキャストから近距離に

1 エンゲージ。

キャスト人数が2人の場合、それぞれ《不可知》と《電脳神》を使用して舞台袖に侵入する。(※4)

◆結末

戦闘は人知れず終わる。ちょうどステージもクライマックスだ。

ステージを最後まで見届ければこのシーンは終了だ。

(※4)PC人数が一人の場合

殺陣が始まってから“会員 No.004”が《電脳神》を使用して舞台袖に表れる。

“殺陣殺し”はエキストラとし殺陣に紛れている。PCの勝敗が“殺陣殺し”VSレイとリンの勝敗となるわけだ。

NOVAクルード用データ

「殺陣殺し」夷 剛宏

「殺陣でござる、殺人ではござらん」

元殺陣役者。事故で人を切ってからサイコキラーになってしまった。殺陣役者と生死をかけた殺陣を行うのが生きがい。

▼スタイル

カブキ◎、カタナ●、カゲ

▼神業

□チャイ □死の舞踏 □不可知

▼カット進行で行うスタイル判定

▲カブキ：精神攻撃

紙一重の殺陣で斬られたと誤認させる。

♥カタナ：白兵攻撃

日本刀で斬りかかる。

▲カゲ：白兵攻撃

脇差により死角から攻撃。

NOVAクルード用データ

「会員 No.004」片塩 賢典

「僕のほうがプロデューサーにふさわしい！」

“暴走歌手”リンのファン。ティディベアを乗っ取って

“殺陣殺し”から守るためにステージを中止させようとしていたが、中止にならない苛立ちがプロデューサーへの怒りになった。

▼スタイル

バサラ、カゼ、ニューロ◎●

▼神業

■天変地異 □脱出 □電脳神

▼カット進行で行うスタイル判定

▲バサラ：射撃攻撃

他のプレゼントが襲い掛かる。

▲カゼ：白兵攻撃

ドローンで突撃する。

◆ニューロ：精神攻撃

マインドハックを行う。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

●エンディング1:課長、アイドルになる!?

◆解説

共通エンディングである。描写は一例である、キャストに合わせて演出してください。

◆描写

ステージが終わった直後の舞台裏。二人を出迎える。

▼セリフ: “暴走歌手” リン

「プロデューサーもお疲れさまですー」
「お姉さま、また共演してくださいね!」

▼セリフ: “暴走課長” レイ

「がらじゃないから、これが最後でいいよ。」
「な、『①イヌ』もそう思うだろ?」

◆結末

キャストの対応に合わせて、演出して終了する。

●エンディング2: 課長、缶詰めになる

◆解説

『①イヌ』の個別エンディング。

◆描写

課長のオフィス、1週間分の書類を二人がかりで片づけているが、この大量の書類の山は一向に減らない。

▼セリフ: “暴走課長” レイ

「もうアイドルはこりごりだー!」

◆結末

書類の山に埋もれる二人を映してこのシーンは終了する。



“暴走課長” レイのロールプレイ

イメージと違うといわれるかもしれないが、本シナリオではレイは「嫌がってはいるけどまんざらでもない(というかちょっとうれしい)」くらいの感じである。

むしろ、「嫌がって見せてはいるが、本心はやる気満々」くらいでもいい。ちょっと褒めたら三倍デレてくれるくらい夢のあるロールプレイをしてもらいたい。

筆者は XENO とがちしか知らないのでプロデューサーさんっぽいムーブがいまいちよくわかりっておりません。

レイはカウンターグロウ収録のリプレイ、スリドッグナイト』『ナイト・アフター・ナイト』に出ているのでよく知らない人は読んでみてもいいかも? 電子書籍版も出てるよー。(宣伝)

“殺陣殺し” 夷 剛宏

カブキ○、カタナ●、カゲ

▼設定

「殺陣でござる、殺人ではござらん」

元殺陣役者。事故で人を切ってからサイコキラーになっちゃった。殺陣役者と生死をかけた殺陣を行うのが生きがい。

▼神業

☐チャイ ☐死の舞踏 ☐不可知

▼能力値 / 制御値

♠理性：5 / 10 ♣感情：3 / 13
♥生命：7 / 12 ♦外界：6 / 9

▼戦闘データ

[CS] 8 [AR] 1
[防御力] S:1 / P:1 / I:1

▼一般技能

4♠♣♥♦ ★白兵
4♠♣♥♦ 芸術：殺陣

▼スタイル技能

3♠♣♥♦ マエストロ (TNX180)
2♠♣♥♦ コミックヒーロー (TNX180)
4♠♣♥♦ ハヤブサ (TNX204)
4♠♣♥♦ ベイルアウト (TNX180)
4♠♣♥♦ †修羅 (TNX205)
4♠♣♥♦ ※アートバトル (TNX181)

▼アウトフィット

・降魔刀 電：- / 隠：5 (TNX232)
攻：S+4 受：2 射程：至近 日本刀
・鎖帷子 電：- / 隠：15 (TNX238)
防 (S/P/I)：1/1/1 鎖帷子
・雅 電：12 / 隠：- (TNX238)
ファッション。着流しの和服
・ウェット 電：- / 隠：制 (TNX258)
サイバーウェア・タップ・サイコアプリを使用できない

▼戦闘プラン

<ベイルアウト>は常に組み合わせて判定するのでBSの効果を受けない。
最初のセットアップは<ハヤブサ>を使用し、[CS] + [カードの数字] する。
<白兵><芸術：殺陣><ベイルアウト><†修羅><※アートバトル>で攻撃、<マエストロ>の効果で達成値に+3。
攻撃力はS+4で[差分ダメージ]を追加する、何らかの<芸術>を組み合わせないとリアクションできない。
攻撃は<コミックヒーロー>で耐えるが、精神攻撃や(手札的に)耐えられそうにない攻撃は神業で防ぐ。

“会員 No.004” 片塩 賢典

バサラ、カゼ、ニューロ○●

▼設定

「僕のほうがプロデューサーにふさわしい！」

“暴走歌手” リンのファン。ティビエアを乗っ取って“殺陣殺し”から守るためにステージを中止させようとしていたが、中止にならない奇立ちがプロデューサーへの怒りに変わった。

▼神業

☒天変地異 ☐脱出 ☐電脳神

▼能力値 / 制御値

♠理性：8 / 15 ♣感情：3 / 11
♥生命：3 / 8 ♦外界：7 / 14

▼戦闘データ

[CS] 7 [AR] 1
[防御力] S:0 / P:0 / I:0

▼一般技能

3♠♣♥♦ 電脳
3♠♣♥♦ ★操縦：ドローン

▼スタイル技能

3♠♣♥♦ ライドファイト (TNX196)
3♠♣♥♦ ★ドミネート (TNX224)
1♠♣♥♦ †元力：器物 (TNX185)
4♠♣♥♦ ※カミカゼ (TNX197)

▼アウトフィット

・トイバディ 電：11 / 隠：- (TNX248)
[SF: 1, 防 (S/P/I): 0/0/0] ティビエア型のドローン
・ガイアデック 電：15 / 隠：10 (TNX244)
手帳サイズのタップ [ス: 2]

▼戦闘プラン

<★操縦：ドローン><電脳><ライドファイト>で攻撃、ダメージはI+0、<†元力：器物>の効果で達成値+2。
ダメージ算出の際に<※カミカゼ>を使用しダメージ+[カードの数字]するが、自分にも[カードの数字]点の肉体ダメージが入る。
1カットに1回、<電脳><ドミネート>によるドッジを行える、<†元力：器物>の効果で達成値+2。
神業で“殺陣殺し”を守ることはないし、条件を満たした場合に行える“説得”は神業で防がない。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。

『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。

また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。

ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。

シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。

ホームページ (http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/UL_NOVA.html) の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。

(このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります)

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

- ① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
- ② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
- ③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION 投稿型シナリオ共有サイト

NeuroCrowD

投稿シナリオ No.UL009 『課長、ステージに立つ！？』

発行日：2016.7.27

執筆（著作権者） K.U.Z.

イラスト なし

企画 ニューロ／CD製作委員会

DTP まだら牛

素材 Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com

サイトURL： http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/UL_NOVA.html